

ウィズコロナ、アフターコロナ時代の清水谷高校

清水谷高等学校 校長 日笠 賢

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、本年5月8日に2類相当から5類感染症へ指定替えになり、学校生活もコロナに翻弄された3年間から漸く抜け出そうとしています。

清友会の皆様には、コロナ期間中における様々な制約の中、創立120周年を迎えた母校に対して、記念事業による食堂の「ラーニング・カフェ」化の改装や、1年遅れで実施した記念式典と祝賀会の開催に、多大なご尽力とご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。お蔭様で生徒が命名した「くすのキッチン」で昼休みに寛いだり、放課後には部活のミーティングや職員研修等に利用したりする姿が定着してきました。また、記念式典でご講演いただいた川西賢志郎さんの楽しく熱いメッセージは生徒の心奥に深く響いたでしょう。今後のウィズコロナやアフターコロナの時代においては、清友会の皆様にも、清水谷高校にお越しいただく機会を可能な限り増やしたいと考えています。

さて昨年度は、清水谷高校の制服について、性の多様性に関する時代の要請や生徒の要望なども踏まえ、従来のセーラー服と詰襟服に加えて、ジェンダーレスのブレザー型制服を選択肢に追加し、酷暑対策にポロシャツの制服も制定しました。昨年6月の清友会総会や11月の120周年記念祝賀会では、経緯等とともに伝統のセーラー服は必ず残すことをお話ししました。ブレザーの色はセーラー服と同色でスカートを共通にし、ボタンは詰襟服と共通の金ボタン、ネクタイやリボンも清水谷ブルーで統一し、ブレザーの襟には清水谷ブルーのラインが入り、男子も清水谷ブルーを着られるようになりました。胸につけるエンブレムは生徒が発案して清水谷高校伝統の2つの校章を組み合わせたものになっており在校生が清水谷の伝統を大好きことが良く分かりました。思えばセーラー服を制服にした1923年頃から丁度100年、新制になり男子が入った1948年から75年のタイミングでの制服の新たな選択肢の追加になりました。

新入生78期生は、女子の7割がセーラー服選択で、3割がブレザーを選びました。両方購入した生徒やパンツ（ズボン）を購入の生徒もいます。男子は9割がブレザーで詰襟は10名ほどです。2年生にもブレザー購入者がいます。

清水谷高校は創立123年目を迎えますが、誇りある歴史と伝統をしっかりと受け継ぎつつ、『愛と怒』の精神の下、生徒が個性と多様性を尊びながら共生社会で使命を果たして幸せな人生を歩むための教育を進めていきます。

清友会の皆様には、引き続き清水谷高校に温かいご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。